

# 文学教材の解釈 2014



寺田守編著

京都教育大学 国語教育研究会

# 目次

はじめに

佐々木智美、寺田守

.....

1

## 小学校編

一 かさこじぞう(岩崎京子)

寺田守

.....

4

二 お手紙(アーノルド・ローベル)

吉田紘士、河南希、紺谷篤、

里見凌佑、高宮奈巳、波部真亜子

.....

18

三 お手紙(アーノルド・ローベル)

大橋実華、鄧立新

.....

25

四 モチモチの木(斉藤隆介)

井上智香、山本賢史、山根夕佳、吉川美那子

.....

29

五 白いぼうし(あまんきみこ)

渡部彬、浅野真実、島本明日香、

池田由季乃、居林奈津実、今中祐希

.....

38

六 白いぼうし(あまんきみこ)

大橋実華、宮川恵実子

.....

45

七 大造じいさんとガン(椋鳩十)

濱地桃歌、森本美乃里、山里一成

.....

52

八 海のいのち(立松和平)

宮坂綾乃、堂前汐里、中口喬碩、西岡笑美

.....

61

中学校編

九 オツベルと象(宮沢賢治) 井上小夜、梅本航希、尾白いくみ …………… 6 8

一〇 空中ブランコ乗りのキキ(別役実) 伴太貴、白井沙也加、林禎之、吉田衣織 …………… 8 0

一一 夏を見上げて。(あさのあつこ) 伊藤直毅、小幡千尋、岡崎隆祥、表里美、梶隼一郎 …………… 9 0

一二 夏を見上げて。(あさのあつこ) 椎葉一勲、鄧立新 …………… 9 8

一三 形(菊池寛) 山内貴弘、若杉良、元川裳耶子、船越香織 …………… 1 0 2

一四 走れメロス(太宰治) 寺田守 …………… 1 0 9

一五 風の唄(あさのあつこ) 有川梨沙、石川奈緒美、亀井華、栗村隆太郎 …………… 1 3 2

一六 握手(井上ひさし) 椎葉一勲、宮川恵美子 …………… 1 4 2

高等学校編

一七 神様(川上弘美) 上田慎也、野田千鶴、初田美紀、細川智樹 …………… 1 4 9

一八 鏡(村上春樹) 田尻愛里紗、佐々木智美、村上公崇、河合遼太 …………… 1 5 7

一九 みどりのゆび(吉本ばなな) 金伽耶、松岡柊人、宮本あゆみ、吉田美優、和田睦美 …………… 1 7 2

おわりに

山里一成

.....

180



# はじめに

佐々木 智美、寺田 守

『文学教材の解釈 二〇一四』は、文学教材の研究資料集の第三集である。今回対象とするのは小学校二年から高等学校現代文Bまでの全十九編の教材である。教材の本文から、文の意味、言葉の意味をまとめ、授業作りの資料となることを目的とした。教材研究をするにあたり、次のような構成で作業を行った。

- ① 作者と作品について：作者の経歴、作品の背景について調べ、まとめた。
- ② 叙述：作品の叙述を、一文単位で引用し、読み取れる意味を記述した。
- ③ 考察：担当者が解釈する中で抱いた主題、疑問点、人物像などを考察した。

本書の作成に当たり、重点が置かれたのが、②叙述である。一文単位で本文を引用し、その一文から読み取れる意味を抽出した。叙述の意味は、担当グループの議論を経た解釈であるが、まだ議論の余地を残すものもある。

「鏡」（村上春樹）の中の一文を例にあげる。強調部分が本文の引用である。

**我々は同じようにお互いの姿を眺めていた。**

「我々」とは「僕」と「鏡の中の像」のことを指す。「同じように」とあることから、この時点では「鏡の中の像」は、身体の動きとしてはまだ何も動き出していない。

「憎しみ」を理解したということは「僕」と「鏡の中の像」に表情などの違いがあったのではないかという指摘があったが、「憎しみ」を「僕」がどのような手段で感知したのかということについての描写は何もないため、両者の間で明確に表情が違ったのかどうかはあざかり知ることが出来ないのではないかと考える。

この一文に対して、当初担当グループは「僕」と「鏡の中の像」との間に表情の違いがあるか否かを議論していなかった。しかし他のグループ

から出た意見をもとに、新たに両者の表情について着目し、再度議論を重ね、この結論に至った。

また、議論を重ねたにも関わらず、文末に「あずかり知ることが出来ない」とあるように、意見に対して明確な答えの出せないものもある。とはいえ、担当者が詳細に考察した各章は、授業を展開する上で読み落としてしまいかねない内容について熟考されている。冒頭にも述べたように、授業をつくるにあたり、本書を用いることにより、より多様な読解を児童・生徒と行っていくための足がかりとしていってほしい。言葉を指差し、そこから意味を紡ぎ出すことで解釈は豊かになっていく。そうした言葉の意味を紡ぎ出すために、四つの解釈のコツを本書では用いた。

**a. 言葉の削除による意味の変化（この言葉があるのとないのでは、意味がどのように変わりますか。）**

言葉を削除してみても、その言葉があるのとないのでは一文の意味がどのように変化するかを考える。また、その言葉を使った例文を考えてみて意味を考える。

**b. 類義語への置き換えによる意味の変化（AとBとでは意味がどのように変わりますか。）**

類義語を読者が持ち込み、言葉を置き換えて比較することで、二つの文の意味の違いを考える。文の意味が違うということは、置き換えた言葉の意味が違うということである。

**c. 動作化・映像化による意味理解（今ここでして見てもらん。どういう光景か思い浮かべてもらん。）**

登場人物の動作を想像したり、実際にやってみて分かることを考える。また、その場面の映像などを想像してみる。

**d. 自分の経験との関連づけによる意味づけ（これと似た経験はありますか。）**

描かれた状況と同じような体験をしたことがないか考えてみて、思い出したエピソードを共有する。思い出す経験は、直接体験だけでなく似たような物語を知っている、といった間接体験でもよい。

また、解釈するにあたって主に次のような言葉に注目した。

#### **A. 動作を表す言葉**

動詞やそれを修飾する言葉：「のび上がって見ました」「そっとほくそ笑んだ」など

#### **B. 話者の判断が表れた言葉**

助動詞、終助詞、副詞、副助詞：「ような」「ね」「やっ」と「さえ」など

本書は、京都教育大学教育学部の平成二十五年度・二十六年度演習科目「国語科教育演習c」および滋賀大学教育学部の平成二十五年度科目「中等国語科教材内容論」、滋賀大学大学院教育学研究科の平成二十五年度科目「国語科教材開発」受講者の成果をまとめたものである。明らかな誤りは寺田が修正したが、校正上の不備や不確かな解釈も残されている。御批正を仰いで改善していきたい。本書が、国語科教育の糧となれば幸いである。

今回も執筆者にたくさんイラストを寄せてもらい、華やかな紙面となった。イラストは、井上智香さん、白井沙也加さん、濱地桃歌さんが描いた。また表紙のイラストは濱地桃歌さんが描いた。

第一集、第二集は左記のホームページでも公開している。今回もホームページで公開する予定であり、これらも参照して頂ければ幸いである。（京都教育大学のホームページから「教育支援ネットワーク（授業のたね）」アイコンをクリックすることでアクセスできる。）

#### 第一集

<http://kyoshien.kyokyo-u.ac.jp/public/terada/bungaku.pdf>

#### 第二集

<http://kyoushien.kyokyo-u.ac.jp/terada2/terada02.htm>

#### 第三集（予定）

<http://kyoushien.kyokyo-u.ac.jp/kokugo.htm>